

「民族文化」一般の階級的性格

民族文化のスローガンは、ブルジョア的な欺瞞である（またしばしば黒百人組的＝教権主義的な欺瞞でもある）。われわれのスローガンは、民主主義と世界労働運動との国際的文化である。

……国際的文化は民族ぬきのものではない。だれも、そんなことを言ったものはない。だれも、ポーランド人の文化でも、ユダヤ人の文化でも、ロシア人の文化でも、その他の文化でもない「純粋な」文化を宣言したものはない。……

おのおのの民族文化のなかには、たとえ未発達のものであるとはいえ、民主主義的文化と社会主義的文化との**諸要素**がある。なぜなら、**おのおのの民族**のなかには、勤労被搾取大衆がいて、彼らの生活条件が不可避免的に民主主義的イデオロギーと社会主義的イデオロギーを生み出すからである。しかし**おのおのの民族**のなかには、ブルジョア文化（多くのばあい、それ以外に黒百人組のおよび教権主義的な文化）もまたある、——しかも、たんに「諸要素」としてではなく、**支配的な文化**としてある。だから「民族文化」一般は、地主、坊主、ブルジョアジーの文化である。このブンド派は、マルクス主義者にはイロハのこの根本的な真実をあいまいにし、それを自分の言葉の羅列で「言いまかしてしまった」。すなわち、実際には、階級的な深淵をあばきだし説明するかわりに、読者にこの深淵をあいまいにした。**実際には**、このブンド派は、超階級的な民族文化の信仰をひろめることをその利益全体から必要とするブルジョアとしてふるまったのである。

「民主主義と世界労働運動との国際的文化」というスローガンをかかげるにあたって、われわれは、**おのおのの民族文化**のなかから、その民主主義的要素と社会主義的要素だけを取りあげる、しかも**もっぱら**、また**無条件に**、**おのおのの民族**のブルジョア文化、ブルジョア民族主義に対抗して取りあげる。……

民族文化のスローガンを直接・間接にかかげることがマルクス主義者にゆるされるかどうか、あるいはまた、すべての地方的特殊性と民族的特殊性とに「順応」しながら、民族文化のスローガンに**反対して**、労働者の**国際主義**のスローガンをすべての言語で宣伝することが必須であるかどうか、——問題はこの点にある。 注) ……は青山の略

第 20 卷 P8~9 『民族問題についての論評』

1913 年 10 ~ 12 月に執筆

コメント

民族文化のスローガンは、ブルジョア的な欺瞞である。超階級的な民族文化の信仰をひろめることはブルジョアとしてふるまうことである。

だから、われわれは、**おのおのの民族文化**のなかから、その民主主義的要素と社会主義的要素だけを取りあげる、しかも**もっぱら**、また**無条件に**、**おのおのの民族**のブルジョア文化、ブルジョア民族主義に対抗して取りあげるのである。